

ADULTS ONLY

R18

成人向け

制作：PAU工房

作画：HEAVEN-11

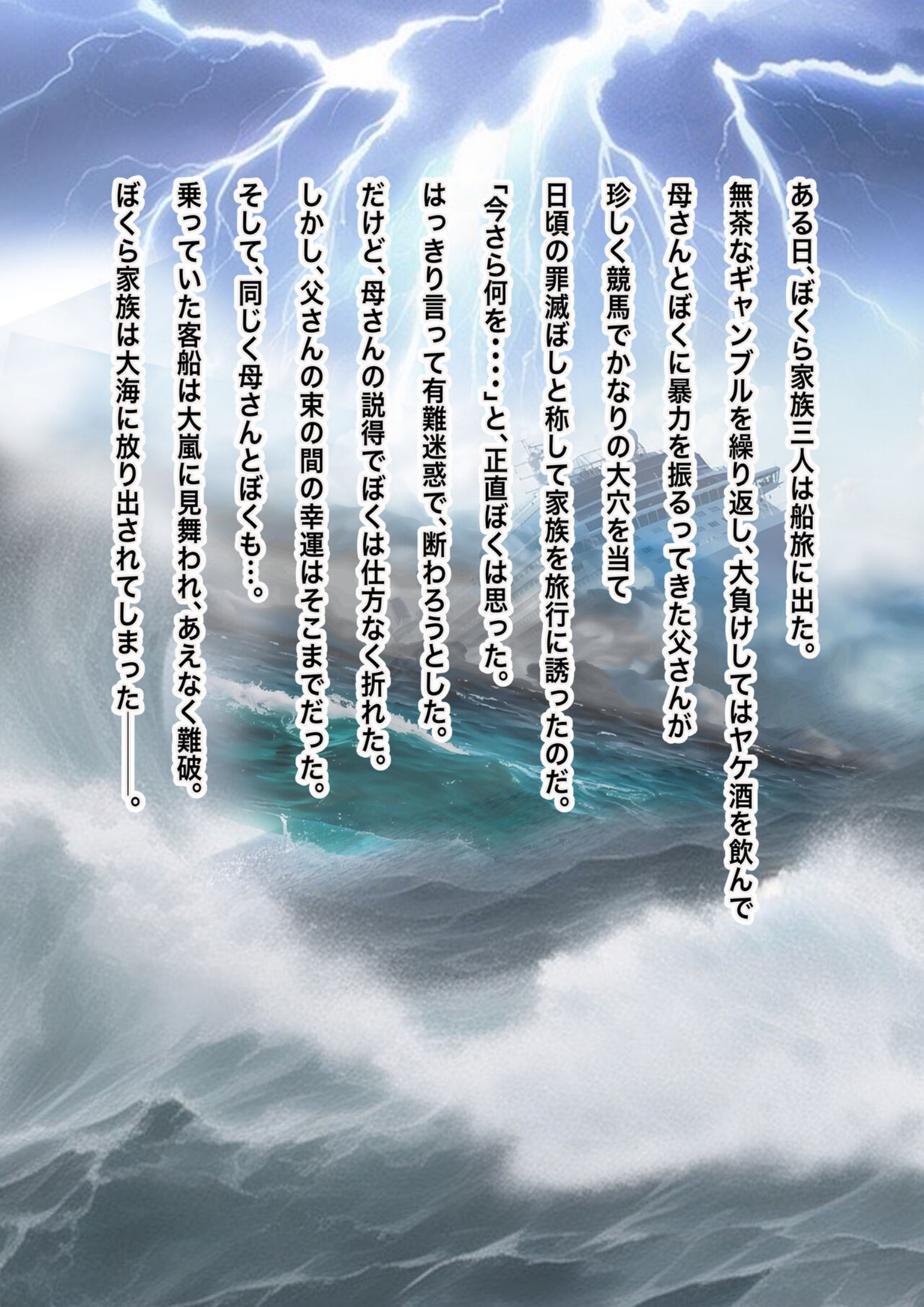
～母さんとぼくの無人島性交～

流された夏

swept away in the summer

2023





ある日、ぼくら家族三人は船旅に出た。

無茶なギャンブルを繰り返し、大負けしてはヤケ酒を飲んで

母さんとぼくに暴力を振るってきた父さんが

珍しく競馬でかなりの大穴を当て

日頃の罪滅ぼしと称して家族を旅行に誘ったのだ。

「今さら何を……」と、正直ぼくは思った。

はっきり言って有難迷惑で、断わろうとした。

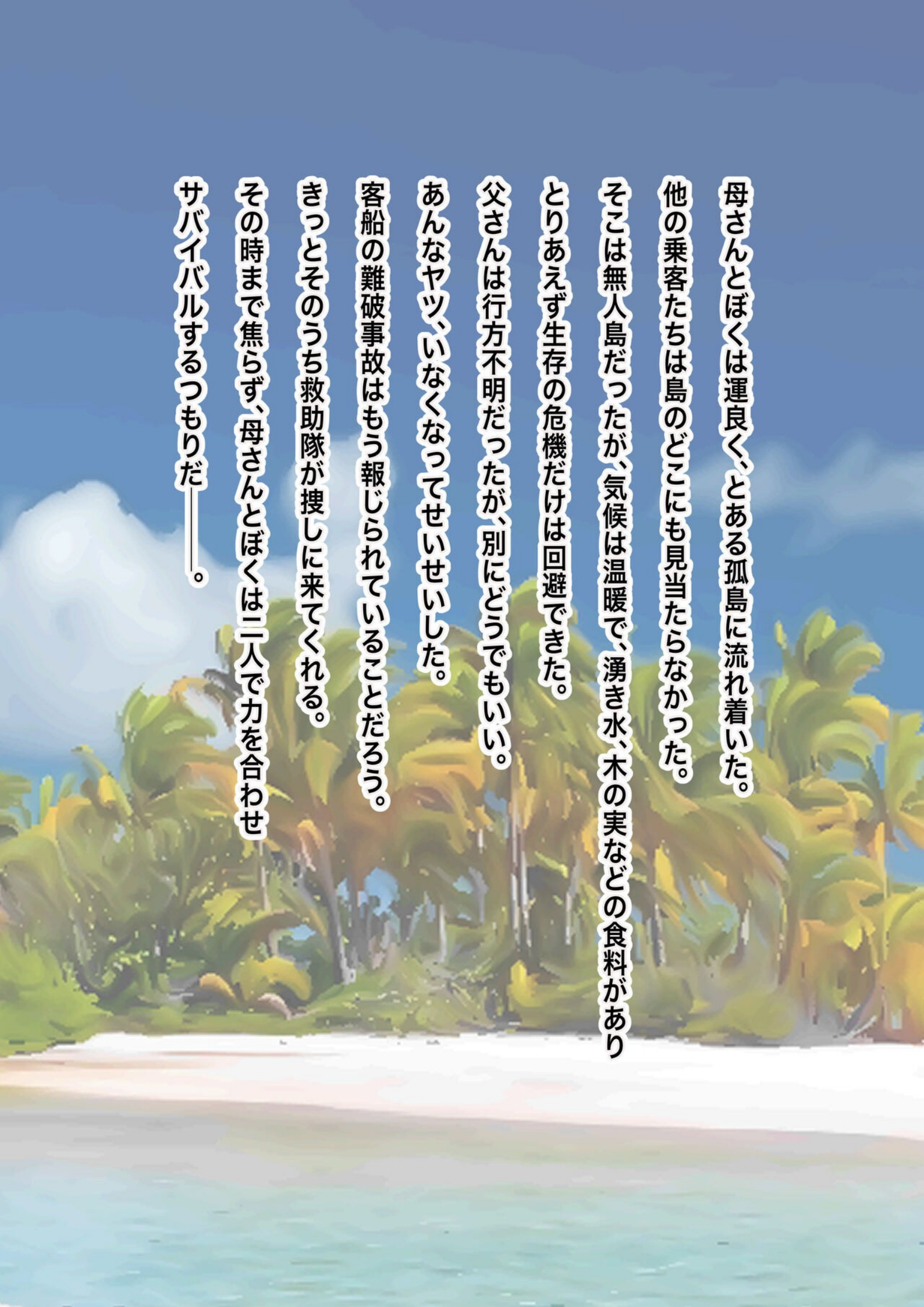
だけど、母さんの説得でぼくは仕方なく折れた。

しかし、父さんの束の間の幸運はそこまでだった。

そして、同じく母さんとぼくも…。

乗っていた客船は大嵐に見舞われ、あえなく難破。

ぼくら家族は大海に放り出されてしまった――。



母さんとぼくは運良く、とある孤島に流れ着いた。

他の乗客たちは島のどこにも見当たらなかった。

そこは無人島だったが、気候は温暖で、湧き水、木の実などの食料がありとりあえず生存の危機だけは回避できた。

父さんは行方不明だったが、別にどうでもいい。

あんなヤツ、いなくなつてせいせいした。

客船の難破事故はもう報じられていることだろう。

きっとそのうち救助隊が捜しに来てくれる。

その時まで焦らず、母さんとぼくは二人で力を合わせ

サバイバルするつもりだ――。



母さんは、難破船から漂着した他人の服を躊躇なく着た。

サバイバルとしては正しいし、そんな母さんは逞しく思えるけれど

中にはセクシーな物もあり、目のやり場に困ることがあった。

薄い布地が母さんの肌に張り付いているのもなやましい…。

こんな状況下でなければ、見ることもなかった母さんの艶姿。

腋の下には毛がちらほら。お手入れができないからだ。

当然、ここでは仕方がないのだが…エロい…。





はあ

はあ

はあ

はあ

はあ

ブーッ♡

だふん♡

ちゃぷ

ひちゃ

ちゃぷ

ある日、覗くつもりはなかったが

偶然ぼくは、母さんの水浴びの現場に遭遇してしまった。

思っていた以上に若々しく、瑞々しく

そして豊満で艶めかしい母さんの裸体に

ぼくは今まで抱くことのなかった思いに囚われ始めた…。

ぼくは、母さんの肉体に触れたいという欲求が

どうしても抑え切れなくなり

ある晩、母さんが寝静まるのを待ち

その服を捲り上げ、現れた豊かなオツパイに

ぼくはほてった指を這わせた。

そうして、さくらんぼのような乳首に

そっと唇を当て、ゆっくりと吸い付いた。

懐しい味がした…気がした。

眠っているにも拘らず、乳首が硬くなってきた。

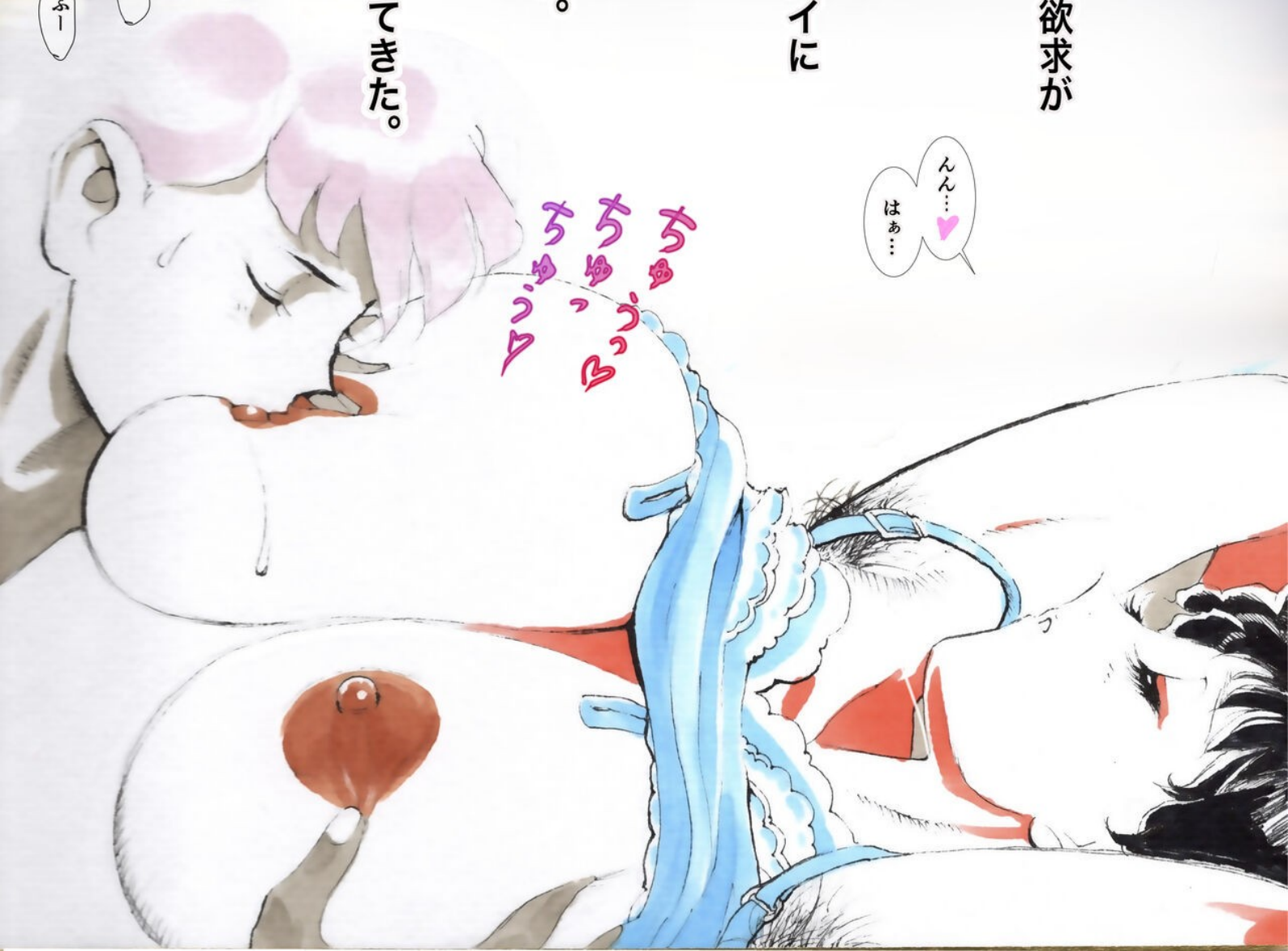
ぼくは夢中で吸い続けた。

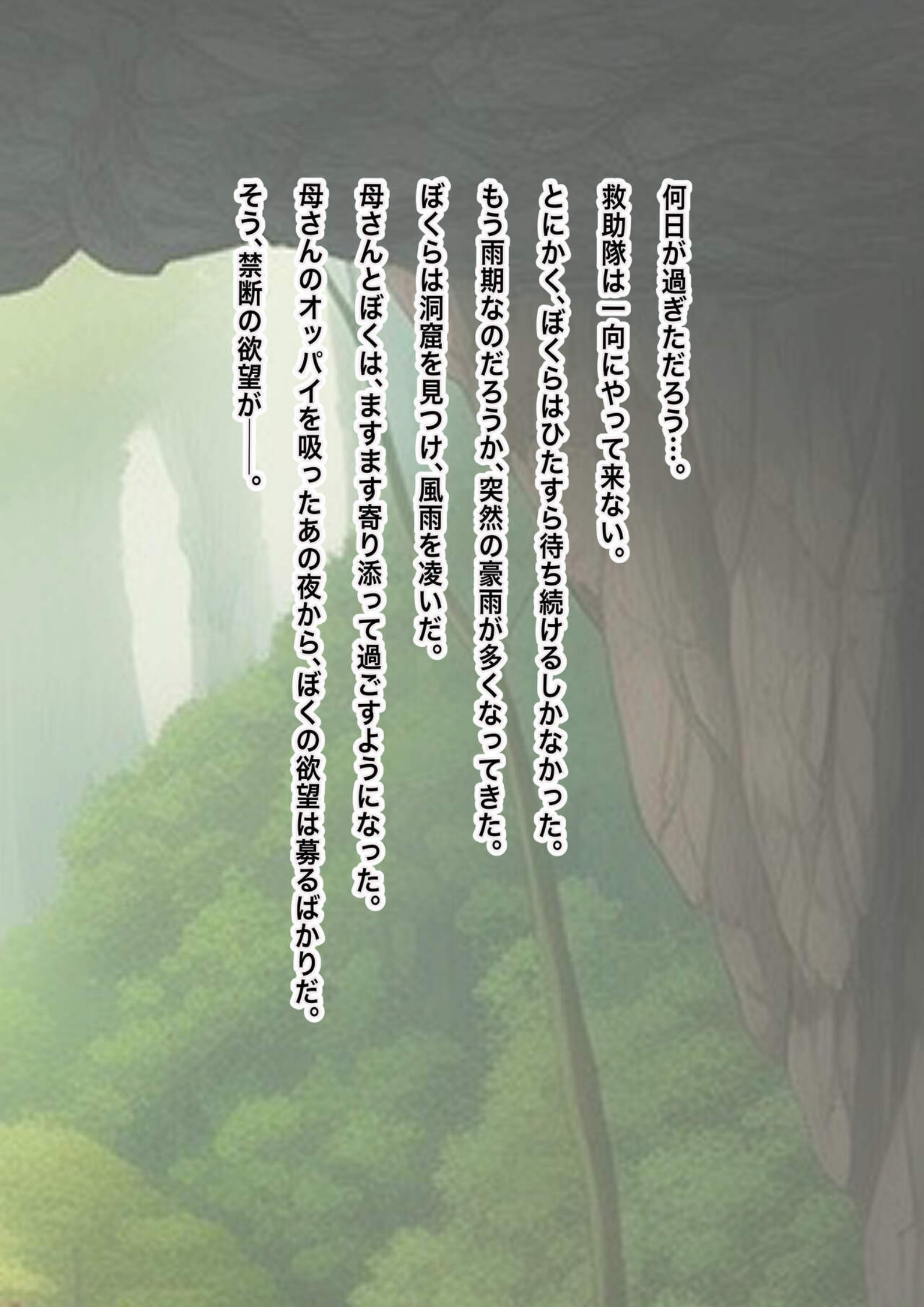
母さんの口から小さな喘ぎ声が漏れた。

んん…
はあ…

ちゅっ
ちゅっ
ちゅっ
うっ
うっ
うっ

ふー
ふー





何日が過ぎただろう…。

救助隊は一向にやって来ない。

とにかく、ぼくらはひたすら待ち続けるしかなかった。

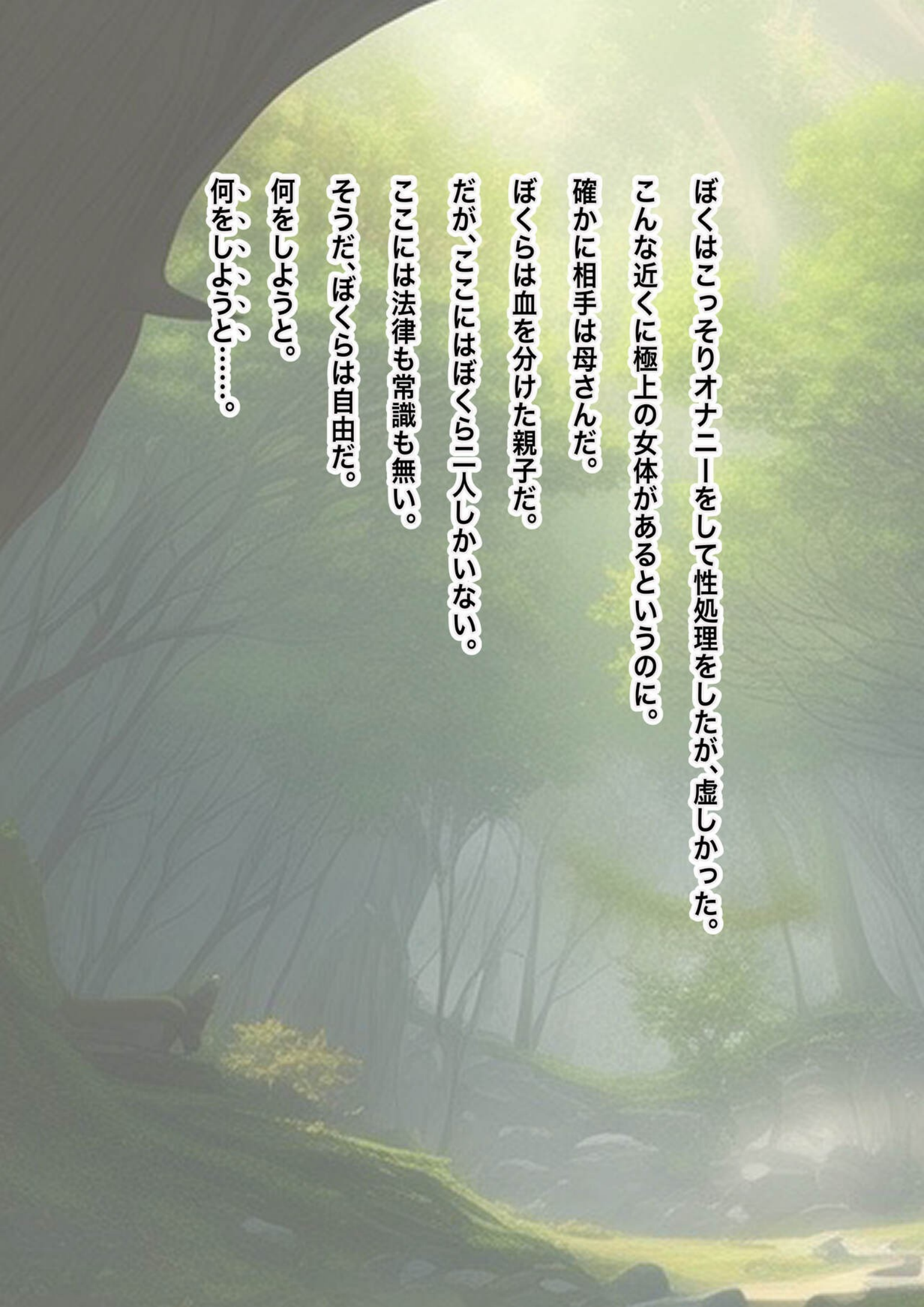
もう雨期なのだろうか、突然の豪雨が多くなってきた。

ぼくらは洞窟を見つけ、風雨を凌いだ。

母さんとぼくは、ますます寄り添って過ごすようになった。

母さんのオッパイを吸ったあの夜から、ぼくの欲望は募るばかりだ。

そう、禁断の欲望が――。



ぼくはこっそりオナニーをして性処理をしたが、虚しかった。

こんな近くに極上の女体があるというのに。

確かに相手は母さんだ。

ぼくらは血を分けた親子だ。

だが、ここにはぼくら二人しかいない。

ここには法律も常識も無い。

そうだ、ぼくらは自由だ。

何をしようと。

何をしようと……。



母さん…

はあ

はあ

ある日、食料調達中に豪雨に遭い、ぼくはずぶ濡れで洞窟へ戻った。

寒さに震えるぼくを、母さんが自分の肌で温めてくれた。

フェロモン

その甘やかな体臭に包まれたぼくは、辛抱たまらず

母さんのシャツの膨らみをまさぐっていた。

拒もうとしない母さんに安心したぼくは、ますます大胆になっていった。

シャツから大きなオツパイを引っ張り出し、両手で荒々しく揉み始めた――。

こうしてれば
少しはあったかいわ…



うん…



かつみ…
♡

このまま二人で
この島にいたい…

母さん
いい匂いだね…

そう？

ああ…
♡

キタッ♡

モリッ

きゅん♡



ああん♡

はあ

はあ

はあ

はあ

母さんのおっぱい吸いたい？
いいのよ…
あの夜みたいに吸って…♡

水浴び…
のぞいていたでしょ

知ってたの…

知っていて…
知っていて…
あなたの触るままに
していたの…♡

母さん…♡

かつみ…♡

それから母さんのシャツを脱がせ、上半身を裸にした。
大きくて柔らかくて、真っ白なオッパイをわし掴みにし
つきたての餅のようなソレを執拗にこねまわす。
乳輪を上下に突っ張り、硬くなった乳首を突出させる。



ああん♡
お乳が伸びちゃう…

母さんのお許しが出て

艶々とした乳首に

ぼくは夢中で

吸い付いた。

自分で自分のお乳を
吸えだなんて…
ああ
恥ずかしい…♡

美味しいよ
母さん…♡

ギャー♡♡♡

あふん♡

噛んで

ねえ♡♡
噛んで

もっと♡
吸って…♡

ちゅっ♡♡
ちゅっ♡♡

好き？

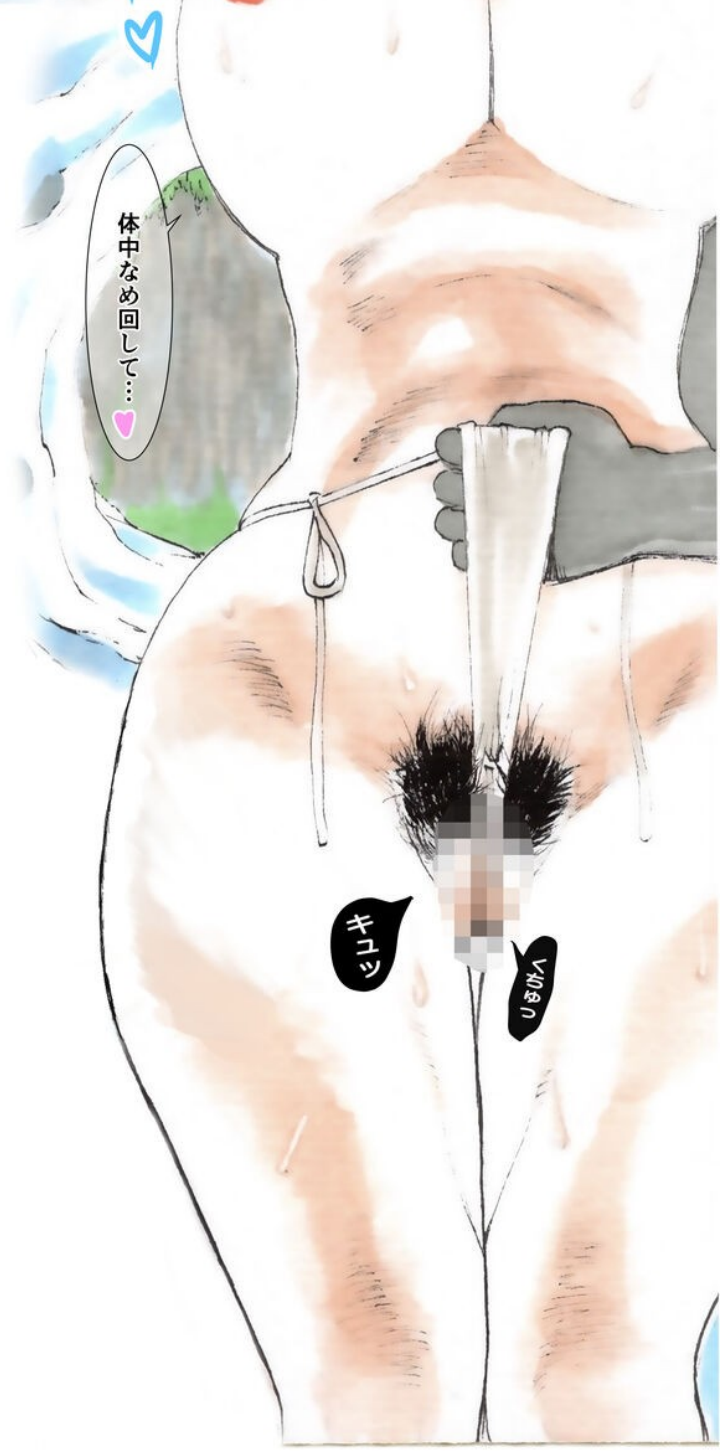
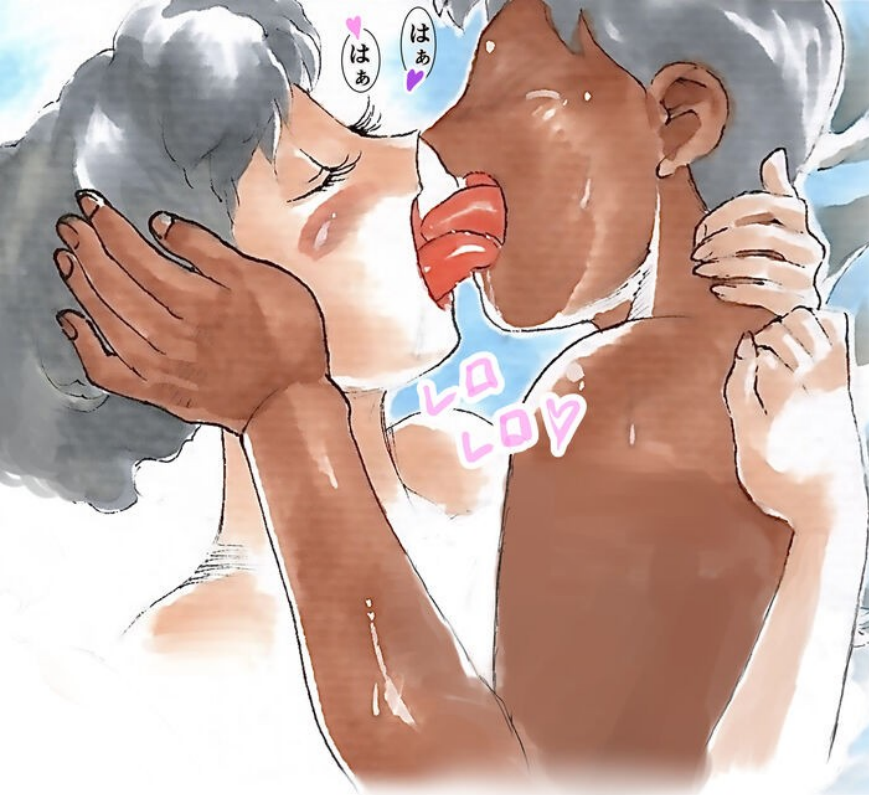
ねえ♡

母さんのお乳好き？♡♡

ねえ？

カミ♡

カミ♡



母さんのすっきり生い茂った腋毛に、ぼくは指を絡ませる。
甘く熟れた女の体中を丹念に舐め回す。
もどかしく母さんの紐パンティを引っ張ったら
布地がワレメに食い込んで、湿った音を立てた。
黒々と密生した陰毛が両側からモサツと溢れ出す。
ぼくらは母子にあるまじきディープキスをし
お互いの熱い舌を激しく吸い込んだ。

洞窟の薄暗がりの中、ぼくらはお互いの性器を見せ合った。

母さんはしなやかな指先でワレメを

グイッと押し開いて

真っ赤な粘膜を

息子の目の前に

さらけ出した。

ぼくのチンコも

フル勃起し、母さんはそれを

嬉しそうに見やった。

ぼくは母さんの

肉の洞窟に

そうっと

指を二本

挿し込んだ…。



うふふ♡

ああ…かつみのが あんなに…！

うふふ♡

うふふ♡

くばあ♡

うふふ♡

うふふ♡

こ…これが
母さんの…

うふふ♡



ぶるん♡

いっ♡

母さん
クリトリスも
こんなに
大きくなってる…

かつみの
オチンチン…
こんなに大きく
育っていたのね…
それにも
とても硬いわ…

母さんのココ
とっても
いやらしい
匂いがするよ…

ギョ♡

ああん…♡

そ…そうよ
ソコから
あなたが…

十〇年前に
ぼくが
出て来た
穴…

いやん♡
恥ずかしい…
今日はまだ
洗ってないの…

ぴちゃ♡
ぴちゃ♡



母さんのココ
すごく
美味しいよ！

ピタッ♡ ピタッ♡

かつみのも
とっても
美味しいわ…

やぽ♡

ぽて♡

母さんとぼくは
お互いの性器を
隅々まで舐め合った。
相手の大切な道具を
洗い清めるように。
また、時には
貪るように激しく…。

ぼくの
キンタマも
食べて…

ずずっ♡

飲んでも
飲んでも
母さんの
いやらしい
お汁が
出てくるよ…

あん♡

じゅる♡
じゅる♡

キョ♡

ぽろ♡
ぽろ♡

いいのかい？
ぼくのチンコを
母さんに
入れちゃうよ…

い…いいわ…♡

イ

ひ
ち
ま
ち
♡

決して触れることの許されない

イ

に
く
る
♡

母と息子の性器が

とっとう生で

入っていく…

イ

ガツチリ結合した…！

イ

に
く
る
♡

ああっ
ぼくのチンコが
母さんの奥まで
入ったよ…！

奥まで…
奥まで全部
入れて…♡

あああ

っ

に
く
る
♡



う…母さん
そんなに締め付けたら…

まだ出しちゃ
だめ！
だめよ ♡

ぼくは夢中でピストン運動を続けた。

もちろん経験はあまり無いけれど

母さんが「名器」だということはわかった。

ぼくのチンコは物凄い膣圧で締め付けられ

すぐに射精感に襲われてしまった…。



やはりぼくは長くはもたなかった。

母さんのアソコが

気持ち良すぎたのだ。

ぼくは熱いザーメンを

母さんの子宮の中へ

たっぷりと注ぎ込んだ。

母さん！
ぼくもう
出ちゃうよ！

もう
いいわ！
出して！

はあ

はあ

むぐう！
むぐう！

私イッてる...！
とうとう息子の
ザーメンが...
母親の
私の子宮に
注がれて
しまったわ...

びゅん

びゅん

びゅん

びゅん

ぬ

ぽん

ああ...
いっぱい
出したのね
かつみ...

妊娠
しちゃう
かも...

依然、救助隊は来ず、母さんとぼくの蜜月は続いた――。

ある月夜の晩、一艘の救命ボートが島に流れ着いた。

客船が難破してからずっと漂流していたらしく、生存者が一名いた。

なんと、父さんだった。悪運が強い。だが食糧は尽きて、かなり衰弱していた。

「おお……かつみ……かつみじゃないか……」と、父さんは弱々しく言った。

「……何しに来たの？」と、ぼくは冷たく答えた。

「何を……何を言っているんだ、お前……早く……助けてくれ……」

「帰ってよ、父さん」

「何……？」

「――あんたは、この島には要らないんだ」

その後起こったことはよく覚えていない……。

とにかく、父さんはこの島からいなくなった。

これからも、母さんとぼくの二人きりだ――。



母さん...
どこにも
行かないで

どうしたの?
急に子供
みたいに...

うふふっ

ええ
わかって
るわ...

キゅ

♡

じゅん♡

♡

♡

ぼくと母さんはもはや親子ではなくなつた。

ただのオスとメスだ。大自然に生きる二匹の獣なのだ。

獣になつた証に、犬が交尾をする時の体位を試してみることにした。

といつても、ただの後背位ではない。

四つん這いになり、互いの尻が向き合う格好で交わるのだ。

やってみると、とても新鮮で具合がいい。まさに“交尾”だ。

犬畜生になつた気分になり、ぼくらは興奮した。

手足を突っ張り、互いの尻が衝突するように激しく前後する…。





ああ...
恥ずかしい...

ふう

中でも放尿プレイには特にハマった。仰向けのぼくに
母さんは犬のように片足を上げ、勢いよく放出した。

正直、セックス以外することが無いからだ。

その他いろんなプレイを楽しんだ。

母さんとぼくは

美味しいよ
母さんの
オシッコ...

生温かく香しい液体が、ぼくの全身に浴びせかけられた。

口にも受け、ぼくは母さんのオシッコを美味しく飲み下した。

飲尿を続けていると、味で相手の体調の変化がわかるようになってきた。

お返しに母さんの顔にもぶっ掛ける。母さんも旨そうに飲んでくれた。

こうしてぼくらは、お互いの健康状態を確認し合っているのだ。





ごめん母さん
また中に
ションベンするよ...

ションベン

ブルッ

ションベン

ブルッ

また、射精した後、母さんに挿入したまま
ぼくは膈内で放尿すること多かつた。

正直言つて、ヘンタイだ。

でも、母さんはけっこう好きらしい。

だからぼくは今日も容赦なく

母さんの胎内をオシッコで満たすのだ。

チンコを抜いた後、ザーメンと一緒にオシッコが

勢いよく流れ出てくる様もエロい。

あああ

とにかく母さんとぼくは

四六時中、発情しっぱなしで

来る日も来る日もセックスに明け暮れた。

無人島に孤立してしまったため

“種の保存本能”というやつが発動したのだろうか。

しかし、世界中のどんなカップルだって

ぼくらほどにはセックスしていないだろう。

きつと、母さんとぼくは相性がいいのだ。

だって、かつてぼくらは一体だったのだから。



し…子宮で
イグッ
イグッ
イグッ!

ぼくのチンコがついに

母さんの子宮の中まで

入り込めるようになった。

まさに里帰りだ。

母さんに訊くと

“ウテルスセックス”

というらしい。

ぼくが子宮の中で

射精すると

母さんが

「あ…」

と言って

一粒の涙をこぼした。

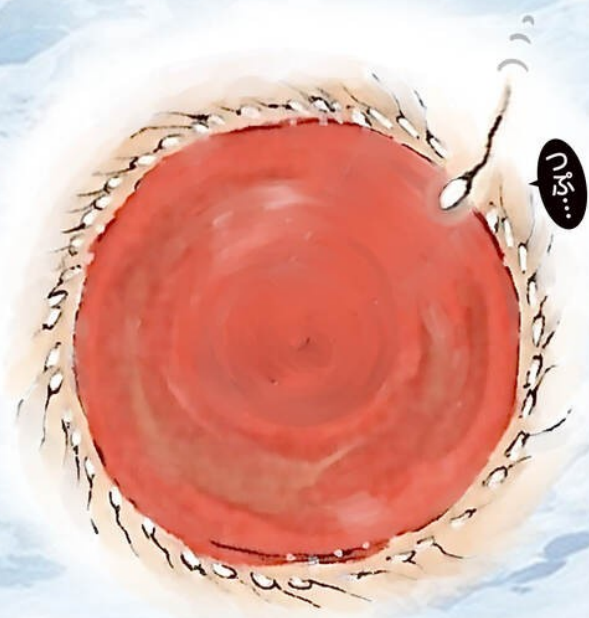
何かを感じた

らしい。

まだ
出るよ
母さん…

あ…

「あ」



「あ」

母さんがぼくの子供を妊娠した。

あれだけ毎日何回も中出しセックスをしていたのだから

至極、自然な結果だ。母さんの卵子がぼくの精子を受精したのだ。

日増しに大きくなっていく母さんのお腹を見ていると

とても複雑だけど、男^{オス}として誇らしく、そして幸せな気分になる。

母さんとぼくの愛の結晶だ。この世に産み落とされるのを見届けたい。

そして大事に育てたい。ぼくの実子であり、同時に“きょうだい”なのだ。

母さんにとっては第二子であり、同時に“孫”でもある。

自分で自分の孫を産む母さん…なんという猥雑さだろう。

最高だ…。



ああ…♡

うふふ…♡

ああん
お乳が
出ちゃう…♡

ムチン♡

あ…動いた

男の子かな

女の子かな



妊婦になって肉感が増し、さらに魅力的になった母さんに

ぼくは美しい貝殻で作ったアクセサリーを贈り、祝福した。

だけど、ぼくの「嫁」になってくれと言うつもりはない。

母さんはあくまでぼくの母親であり、ぼくを産み、育ててくれた女だから。
ひと

優しくて、綺麗で、若々しく、息子のぼくといつでもセックスしてくれ

中出しさせてくれ、ぼくの遺伝子を受け取って、子供まで産んでくれる。

最高だ。世界一淫らで、獣のように逞ましい母親だ。

これからも、ずっとずっと愛し続けたい……。

fin

swept away in the summer



あとがき

swept away in the summer

ご無沙汰しております&初めまして！成年漫画家のHEAVEN-11です！

漫画を描かなくなって久しいですが、なんとかまたデジタル同人という形で作品を発表することができました！

そもそもはファンの方であるPAUさんのリクエストに応じて、私の30年前の代表作の一つ『流された夏』をモチーフにしたイラスト色紙を何点か描いたことが始まりなのですが、PAUさんによって再構成され、テキストも追加され、イラストストーリーとしてまとめられたものがこちらになります。

なので、コラボというか、ほとんどPAUさんの作品になっているのですが、1点1点のカラーイラストとしてのクオリティにはこだわったつもりです。お楽しみ頂けたら幸いです。

では、またいつかお会いしましょう！

HEAVEN-11 (作画)

初めまして、PAU工房代表のPAUと申します。一介のエロマンガファンです。やっと念願叶いました！

そして、お買い上げ誠にありがとうございます！

数年前、HEAVEN先生がアナログのリクエスト・イラストを受け付けていると知り、一も二もなく大好きな母子相姦短編にして無人島エロマンガの元祖的作品『流された夏』をネタに描いて頂きました。その素晴らしい完成度に感動し、同じシリーズでリクエストすること十数回。いずれも期待を上回る出来で、買取りとはいえ、これらを私1人が独占するのは実に惜しい！ということで、画像編集ソフトをにわか勉強し、同人リメイク作品として世に送り出すべくなんとかかんと完成させたのが本作です。

元作品のストーリーラインに則しつつ、私個人の趣味も多分にぶっ込んでいます。特に妊娠オチは元作品には無いですね(^_^;)

原画は色紙にペンとマーカーで描かれていますが、デジタルで見易いように画像処理しました。各シチュエーションの絵を切り貼りし、細かく調整し、地の文、セリフ、書き文字、効果線、背景等々を追加しています。

元々私のリクエストによる画稿であるため、ストーリーを追うよりもエロシーンが多めですが、そこはそれ、「実用的」かと(^.^)

もし「つまんねーよ！」ということであれば、それはひとえに私の責任ですので…m(_ _)m

というわけで、ご意見ご感想があれば下記メールアドレスまで是非お願いいたします。HEAVEN先生とも共有しますので。

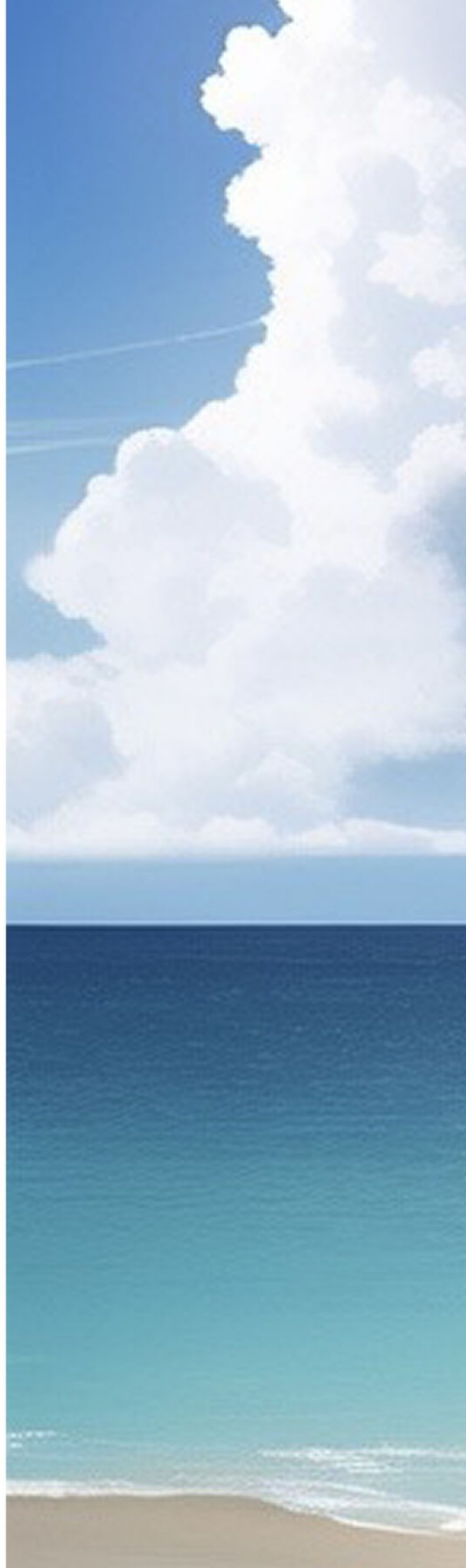
評判がよければ続編もありかと（既にいくつか画稿があります）。長々と失礼しました。

でわ！

[メールアドレス] pau19751214@gmail.com

PAU (構成・文)

- ◆当作品は18歳未満の方の購入・閲覧ができません。
- ◆当作品の無断転載を禁じます。
- ◆当作品の登場人物等は全てフィクションです。
- ◆当作品は近親相姦を推奨するものではありません。



次回…？



進捗は下記にて随時お知らせします
X(旧Twitter)→@HEAVEN19751214
pixiv→[pixiv.net/users/2122564](https://www.pixiv.net/users/2122564)

お買い上げありがとうございます



HEAVEN
ELEVEN
A.

